

[巻頭言]

学会誌活用のすすめ

石井 信明

情報システム学会は2005年4月23日に設立されました。情報システム学会誌（JISSJ: Journal of Information Systems Society of Japan）の第1巻第1号は、それから1年後の2006年3月30日に発行されました。本号は、10周年の年に発行される論文誌になります。

情報システム学会誌発行10年の歩みと評価については、神沼靖子先生が、前号（Vol. 10, No.2）の巻頭言に「学会誌10周年によせて」と題し、来たる10年への課題にも触れながら、詳細な考察をされています。そこでここでは、学会誌の有効活用について、いくつかの情報を提供したいと思います。

情報システム学会誌は、いわゆる原著論文のみならず、情報システムに関連する内容を含んでいれば幅広く投稿を受け付けています。具体的な種類は、「学会誌論文投稿規程」（<http://www.issj.net/kitei/ronbun-toukou-kitei.html>）にあるように、下記のものであります。

<学会誌の掲載記事の種類>

(1) 論文

- a) 論文： 学術、技術上の研究あるいは開発成果の記述であり、新奇性、信頼性、有用性などの価値を有し情報システム学の進歩に貢献するとともに、会員にとって価値のあるものである。
- b) 小論文： 新しい研究開発成果の速報または技術上の新しい提案で、特に速やか

に発表することにより情報システム学の進歩に貢献する内容を含み、将来あらためて論文として投稿することを前提とする。

- c) サーベイ論文： 特定分野の研究あるいは開発成果を独自に体系化したもので、会員にとって有用であるとともに、情報システムの学問的体系化に貢献するものである。
- d) 事例報告論文： 実用に供された情報システムの事例を客観的に報告するもので、同種または異種の情報システムの開発にとって有益な情報を提供するものである。事例報告論文は、客観性、信頼性、有用性を重視する。

(2) 論説

著者の主張、アイデアを論理的に述べたもので、客観的評価は必要としないが論述の論理性が高いことが必要である。

(3) 記事

- a) ニュース： 会員に周知することが適切と考えられる即時性をもった記事。
- b) 文献紹介： 会員に有益と思われる文献の紹介。
- c) 解説： ソフトウェア、ハードウェア、システムなどの詳細を解説する記事。
- d) 討論： 話題の提供、掲載された論文または記事に対する質問および回答。

(4) 創作

実用に供されているシステム、アプリケーションソフトウェアなど、著者の創作物であって、これを発表することが会員にとって有用であると認められるもの。

Nobuaki Ishii

文教大学 情報システム学会編集委員

[巻頭言] 2015年12月28日受付

© 情報システム学会

これまで情報システム学会誌に掲載されたものは、論文に加えて、記事に分類されるものが主流でした。論説、創作の投稿も待たれるところです。また、記事に分類されるもので、文献紹介と討論も、これまでに掲載がありません。今後は、会員への情報提供の一環として、是非、活用をしていただきたいと思います。

この学会誌掲載記事の種類の中で、査読があるのは、「論文」です。その他の種類については、閲読はありますが、内容の審査はありません。おそらく、多くの会員にとり、最も関心の高いのは、「論文」であると思います。論文の査読は、査読委員2名以上および編集委員会が行っています。この「論文」について、2013年から本号までの3年間の投稿と査読の状況をまとめると、次のようになっています。

- ・ 投稿数： 15
- ・ 受理（採録）数： 6
- ・ 却下数： 5
- ・ 著者による取り下げ： 2
- ・ 査読中： 2

この間の採択率（取り下げ数と査読中を除いた受理の割合）は、約55%です。また、採択までに要した日数は、平均180日（最長：363日、最短：57日）です。採択された論文の査読回数は、多くの場合2回であり、一度の査読で受理になった論文はありませんでした。

この最近の統計が、他の学会誌と比べて良いか悪いかは、会員の皆様のご判断に委ねますが、投稿数を増やす努力が必要なことは明らかです。そこで、情報システム学会誌の宣伝をさせていただきます。

<情報システム学会誌の特徴>

情報システム学会誌への投稿・掲載には、費用はかかりません。学会誌によっては、1ページ1万円程度の掲載料を求めるところもありますので、投稿・掲載料が無料であることは、実のところ大きな特徴の一つです。ただし、第

一著者は、掲載時に会員である必要があります。

幅広いジャンルの論文を受け付けています。既存の専門領域に当てはまり難い論文であっても、情報システムに関わりがあれば、基本的に査読をしています。

電子ジャーナルのため、ページ数の事前制限を設けていません。そのため、自由な構成で記述をすることができます。ただし、論文誌は図書ではないので、一論文は一つのテーマとし、説明に必要十分な程度のページ数にしてください。

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が構築した「科学技術情報発信・流通総合システム」（J-STAGE）への登録が決まりました。学会誌に採録されたものは、近々に、J-STAGEに登録されます。J-STAGEに登録された論文は、世界中の有力な検索エンジンが検索対象にしていますので、学会誌に公開した論文、記事は、世界に向けて発信されることとなります。J-STAGEを通じて世界中に多くのリンクができ、学会誌に掲載された論文の閲覧と引用数の増加が期待できます。

情報システム学会誌は、諸先輩方が10年前の発行時点で描いていた理想の実現に、いまだ至っていないかと思います。しかし、10周年を記念し「論文」のみを集めて製本した「10周年記念論文集」（頒価2,500円）は、約300ページになりました。一冊にまとめてみると、学会誌における知の蓄積の大きさを、改めて感じます。これは、細々であっても、毎年切らすことなく学会誌の編集・発行を続けてきた、諸先輩方の努力の結果です。学会誌の発展に寄与するアイデアを模索しながらも、一方で、淡々とした継続の努力もまた、これからの10年に必要なことではないかと考えています。

是非とも、情報システム学会誌の有効活用をお願いします。また、学会誌へのご意見、お気付きの点がありましたら、編集委員会にご連絡をお願いいたします。